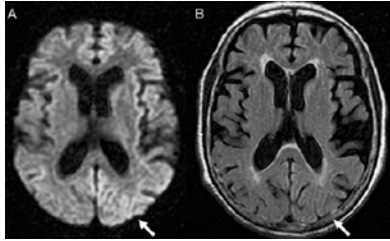


プリオン病におけるMRI診断の有用性と 診断能の向上について

研究分担者： 徳島大学大学院ヘルスバイ
オサイエンス研究部・原田雅史



多施設のMRI画像による
多観察者の診断結果

年齢以外臨床情報を与えずブラインド診断

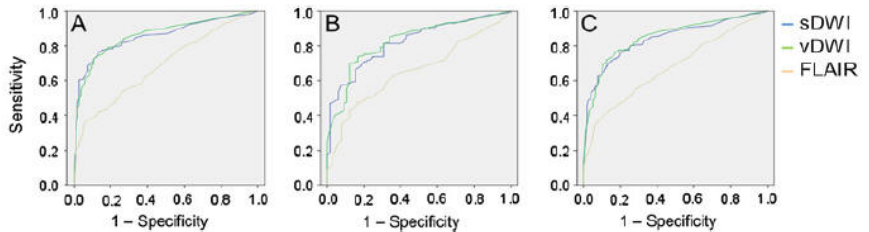
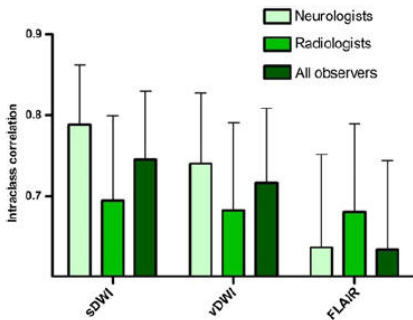


Table 2 Areas under the receiver operating characteristic curves

	Neurologists	Radiologists	All observers
sDWI	0.86 (0.82 to 0.90)	0.82 (0.77 to 0.88)	0.84 (0.81 to 0.87)
vDWI	0.86 (0.82 to 0.90)	0.83 (0.77 to 0.89)	0.85 (0.82 to 0.88)
FLAIR	0.69 (0.63 to 0.75)	0.66 (0.58 to 0.73)	0.68 (0.63 to 0.72)

Means (95% CIs) are indicated.
DWI, diffusion-weighted imaging; FLAIR, fluid-attenuated inversion recovery; sDWI, standardised DWI; vDWI, variable DWI.



観察者の一致性評価
ICC

結果のまとめ

表示条件統一DWI
↓
表示条件可変DWI
↓
FLAIR

今後の方向性

DWI高信号の評価の向上
検討課題
1)磁場強度の相違
2)MPGの強度
3)スライス厚

解説

1. 本研究では、多施設画像を多観察者で評価を行い、表示条件統一のDWIの高い有用性を検証した。
2. DWIにおける基底核及び大脳皮質の高信号がプリオン病診断に有用性が高いことから、診断能の向上には以下の検討が必要と考えられた。
1)磁場強度の相違、2)MPGの強度、3)スライス厚